

## 令和6年度市民意識調査結果の概要

### 【アンケート対象者】

- ・市内在住の18歳以上の市民
- ・有効回答数 1,370件／3,037件（有効回答率45.1%）

### 【実施期間】

令和6年9月20日（金）から  
10月4日（金）まで

### 【回答者属性について】

- ・回答者の半数は60歳以上で、性別は男性46%、女性51%で女性がやや多い。
- ・性別、各年代の回答者数及び割合は以下のとおり。

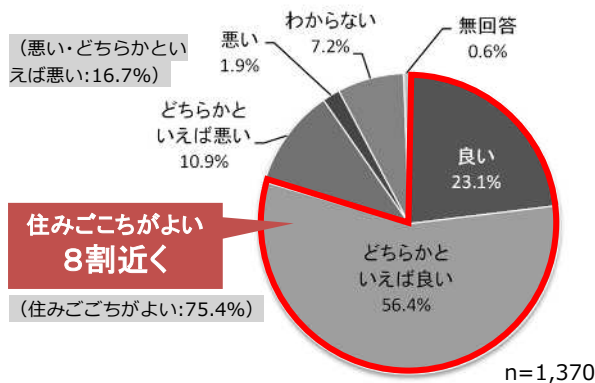
| 男性    | 女性    | 10歳代 | 20歳代 | 30歳代  | 40歳代  | 50歳代  | 60歳代  | 70歳以上 |
|-------|-------|------|------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 631人  | 702人  | 13人  | 74人  | 139人  | 182人  | 237人  | 302人  | 410人  |
| 46.1% | 51.2% | 0.9% | 5.4% | 10.1% | 13.3% | 17.3% | 22.0% | 29.9% |

### ■住みごこちや愛着について

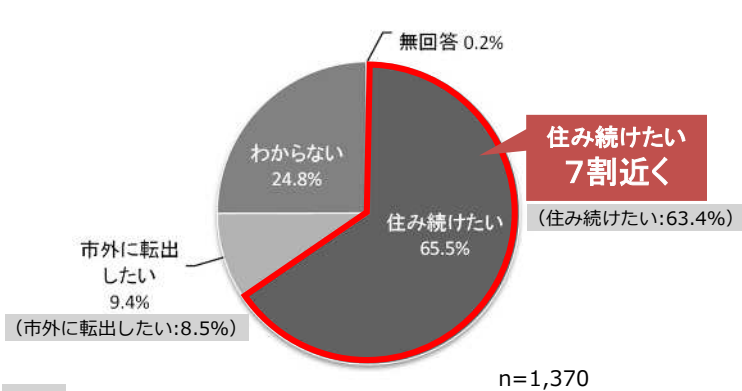
8割近くが住みごこちがよいと考え、愛着を感じ住み続けたいと考えている人も7割近くみられるが、東近江市を自慢できるとした割合が少ないことから、他に誇れるような魅力の再発見やPRの強化が必要と考えられる。

- ・8割近くの人が住みごこちがよいと考えている。また、7割近くが愛着がある、住み続けたいと考えている。
- ・4割近くが東近江市を自慢できると考えている一方で、「どちらともいえない」の回答も約4割となっている。

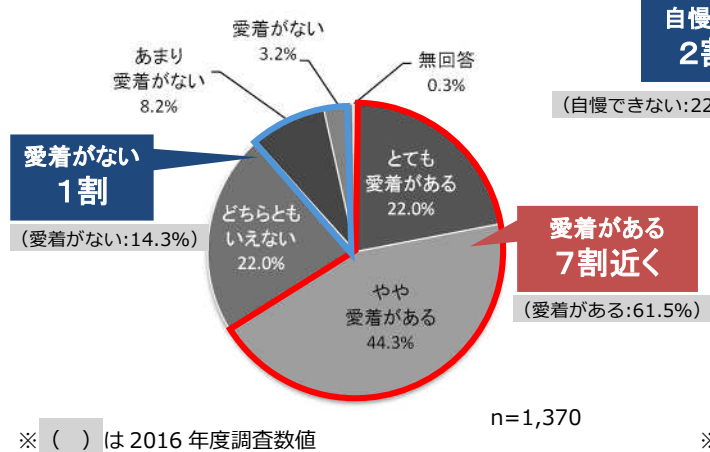
#### Q4：東近江市の住みごこち



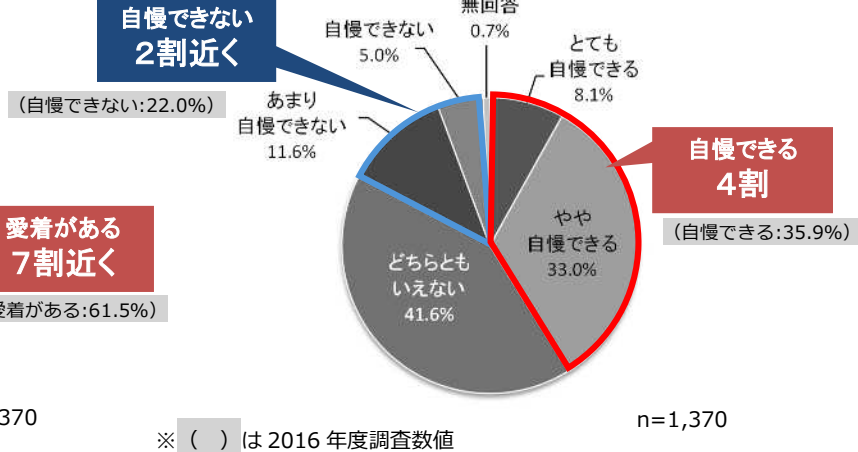
#### Q5：東近江市に住み続けたいか



#### Q6：東近江市への愛着



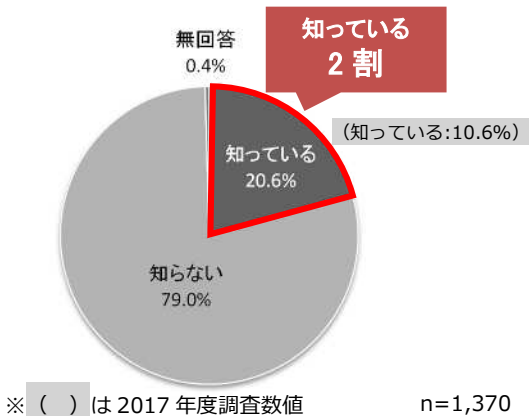
#### Q7：東近江市を自慢できるか



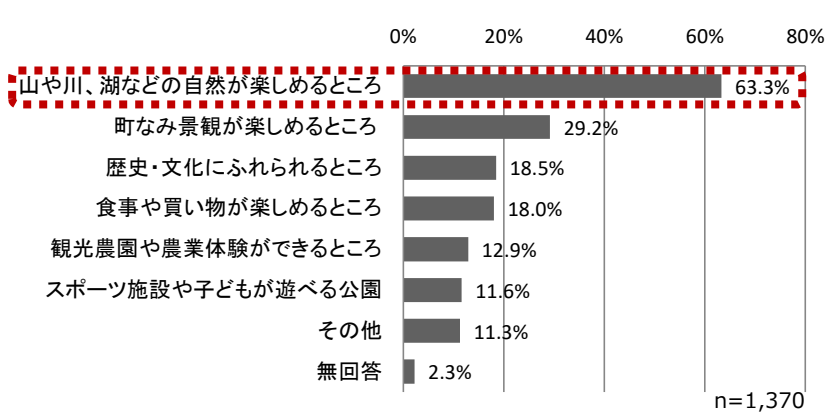
・「鈴鹿10座」の認知度は2割と少ない。

・友人・知人に東近江市を紹介する際、山や川、湖などの自然が楽しめるところを紹介するとの回答が6割近く。

#### Q8：「鈴鹿10座」の認知度

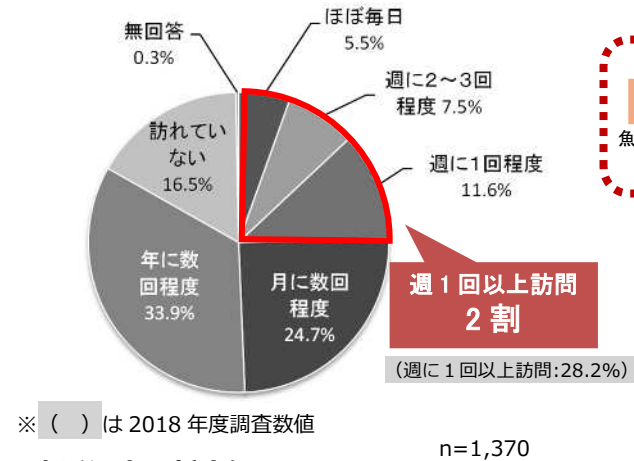


#### Q9：友人・知人に東近江市を紹介するところ（複数選択）

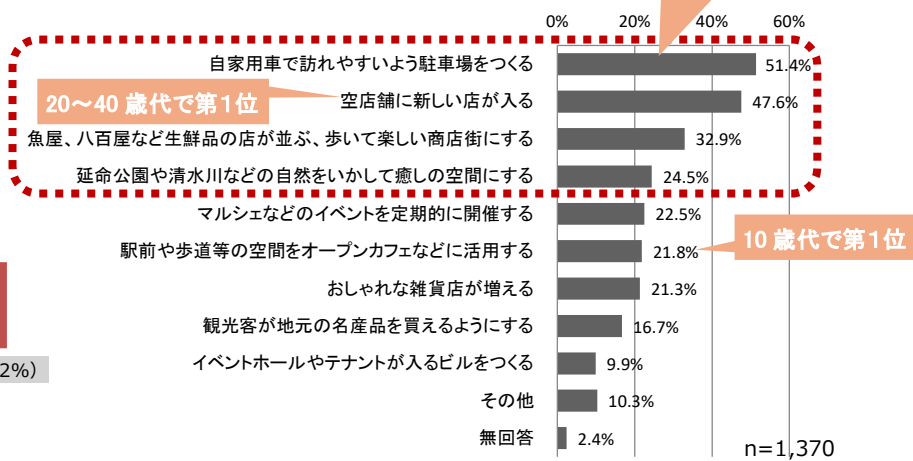


・中心市街地周辺への訪問頻度は週1回以上訪問が約2割となっており、駐車場の整備や空店舗の解消をはじめ、魚屋、八百屋、おしゃれな雑貨店などの店舗が並び、歩いて楽しい商店街の整備、公園等の癒しの空間の整備が求められている。

#### Q10：近江鉄道八日市駅周辺の訪問頻度



#### Q11：中心市街地が活性化するため必要なこと

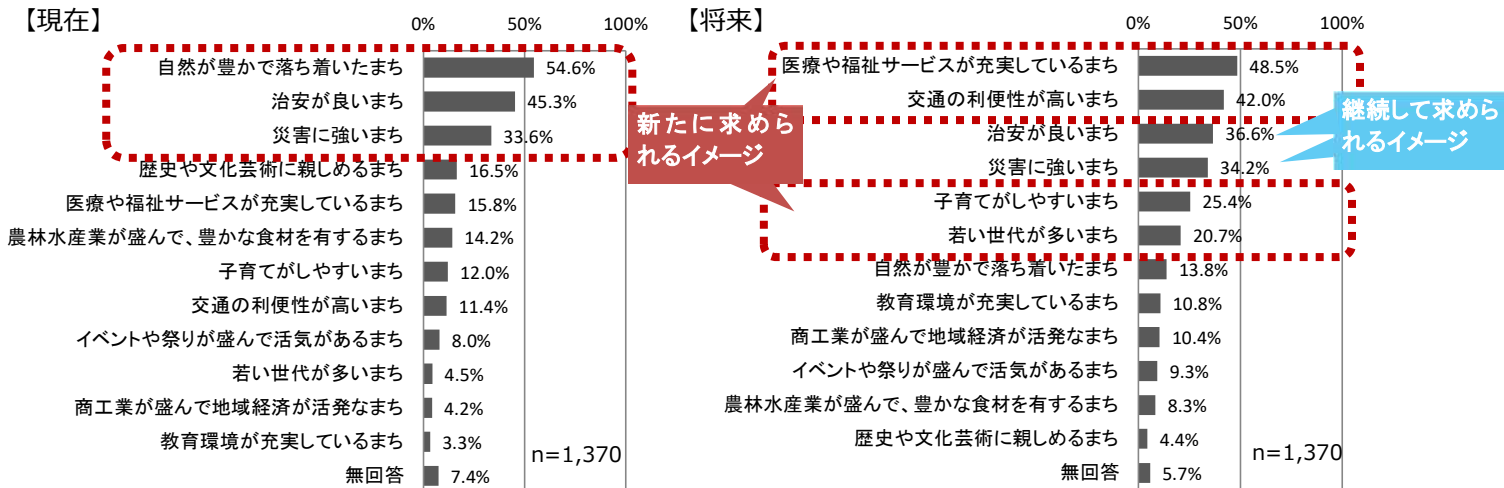


### ■東近江市の将来について

現在は「自然が豊かで落ち着いた」「治安が良い」「災害に強い」まちのイメージが強く、将来は「医療や福祉サービスが充実している」「交通利便性の高い」まちが求められている。

- ・東近江市の現在のイメージは、「自然が豊かで落ち着いたまち」「治安が良いまち」「災害に強いまち」などが多い。
- ・将来求められるイメージは、「医療や福祉サービスが充実しているまち」「交通利便性の高いまち」が多い。

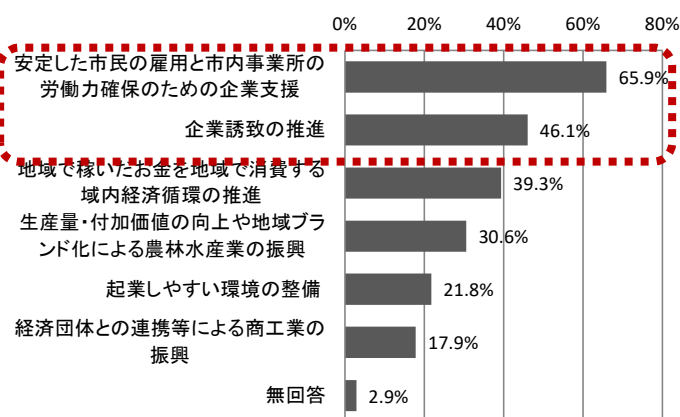
#### Q12：東近江市のイメージについて（3つまで選択）



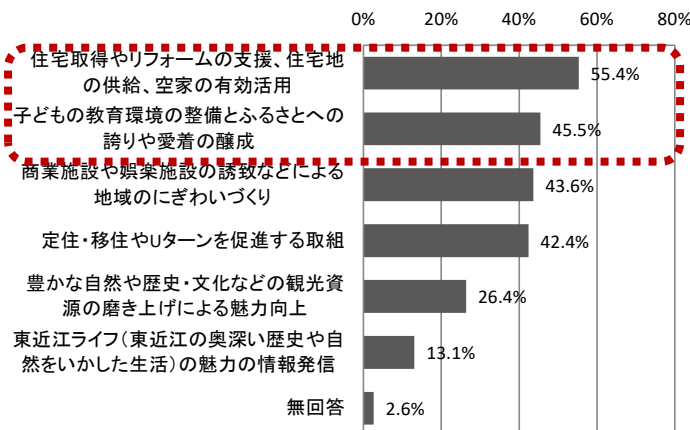
- ・地域経済の好循環を生み出すまちづくりに必要な取組については「安定した市民の雇用と市内事業所の労働力確保のための企業支援」が7割近く、「企業誘致の推進」が半数近く。
- ・行きたい住みたい魅力あるまちづくりに必要な取組については「住宅取得やリフォームの支援、住宅地の供給、空き家の有効活用」が6割近く、「子どもの教育環境の整備とふるさとへの誇りや愛着の醸成」が半数近く。
- ・結婚・出産・子育ての希望をかなえるまちづくりに必要な取組については「保育料減免や奨学金制度など、子育て・教育における経済的負担の軽減」が約6割、「妊娠・出産しても働き続けられる職場環境の整備」が半数近く。
- ・誰もが安心して暮らせるまちづくりに必要な取組については「暮らしを支える保健・医療・福祉の充実」が約7割、地域公共交通の利便性向上が約6割
- ・持続可能なまちづくりに必要な取組については「自主財源の確保」が4割近く、市職員の意識改革、資質向上が約3割

#### Q13：持続可能なまちづくりに必要な取組（3つまで選択）

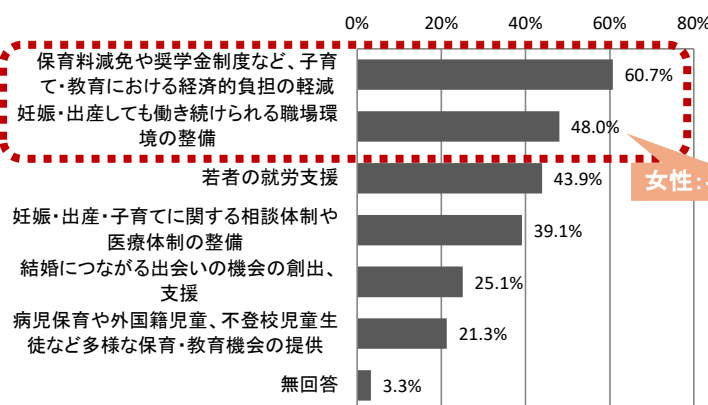
##### ① 地域経済の好循環を生み出すまちづくり



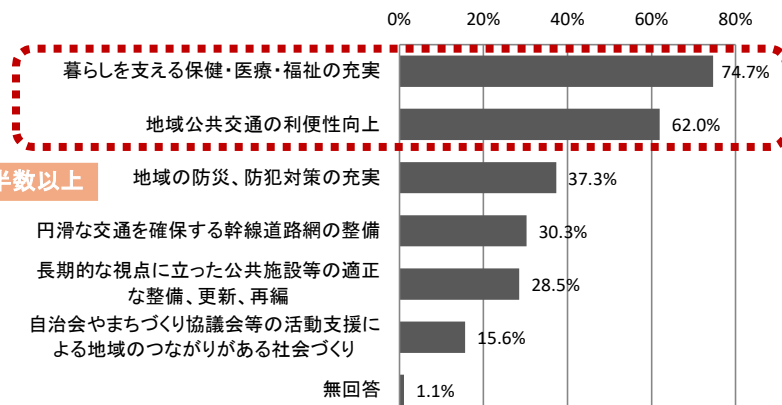
##### ② 行きたい住みたい魅力あるまちづくり



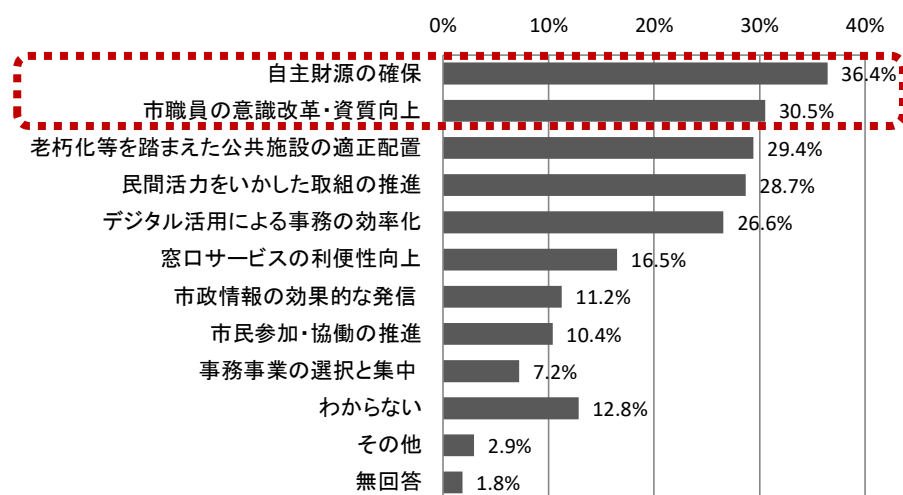
##### ③ 結婚・出産・子育ての希望をかなえるまちづくり



##### ④ 誰もが安心して暮らせるまちづくり



#### Q14：持続可能で安定的な行財政運営のために必要な取組（3つまで選択）

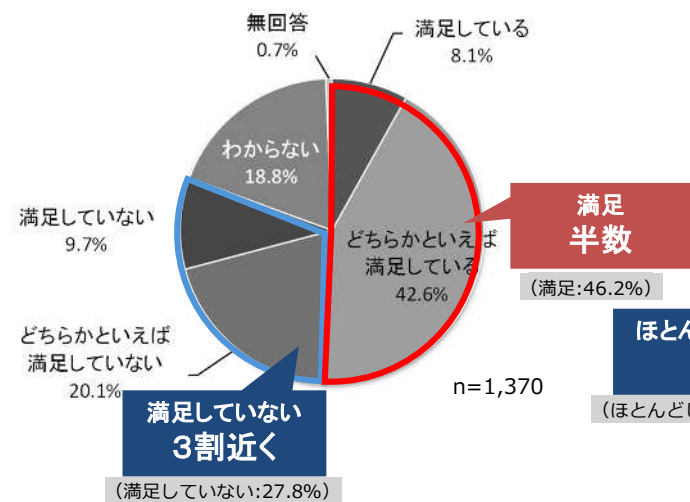


#### ■健康や福祉について

更なる医療体制の充実や運動習慣の定着促進が必要と考えられる。

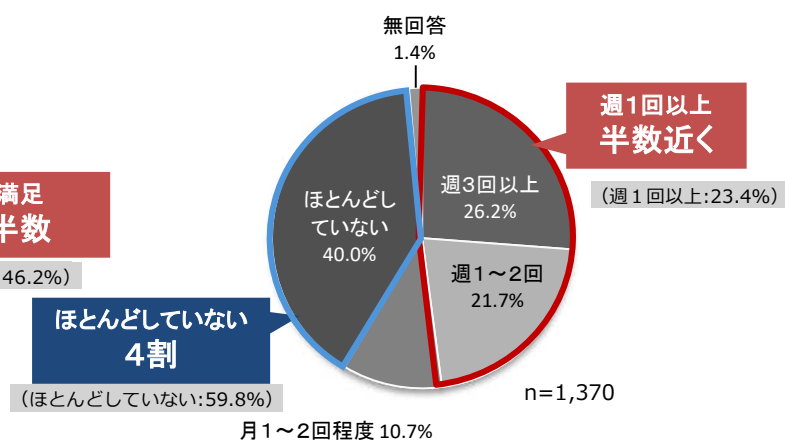
- ・病院や救急時の医療体制については半数が医療体制に満足している一方で、3割近くは満足していない。
- ・スポーツやレクリエーション等の運動は、半数近くが週1回以上実施している一方、4割が「ほとんどしていない」と回答

#### Q16：病院や救急時の医療体制の満足度



※（ ）は2016年度調査数値

#### Q19：運動の頻度



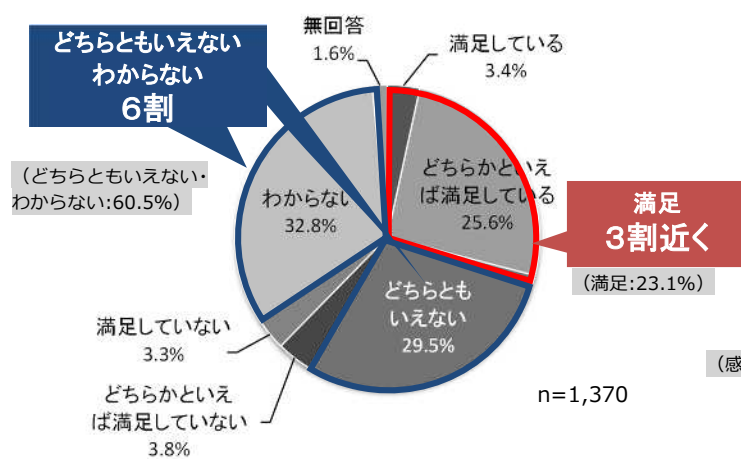
※（ ）は2016年度調査数値

#### ■環境や暮らしについて

自然や環境への意識が高いことから、市民を巻き込んだ自然環境保全の取組の実践やその内容や効果のPRが必要と考えられる。

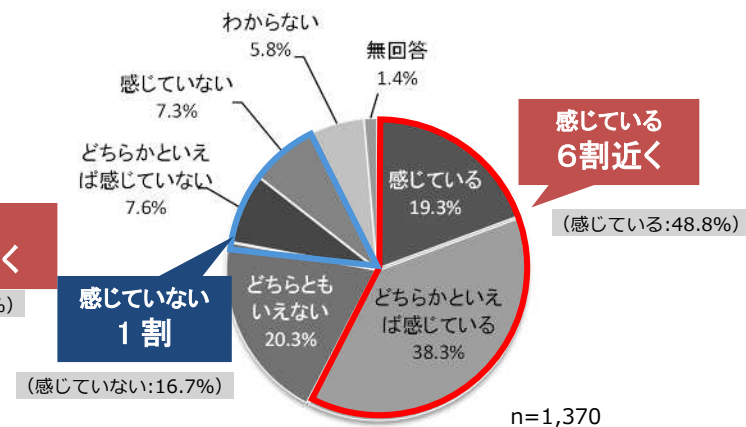
- ・自然環境保全の取組には3割近くが満足しているが、6割が「どちらともいえない」又は「わからない」と回答
- ・6割近くが、暮らしや仕事等日々の営みの中で自然環境との関わりを感じている。

#### Q24：自然環境保全の取組への満足度



※（ ）は2016年度調査数値

#### Q25：自然環境との関わり

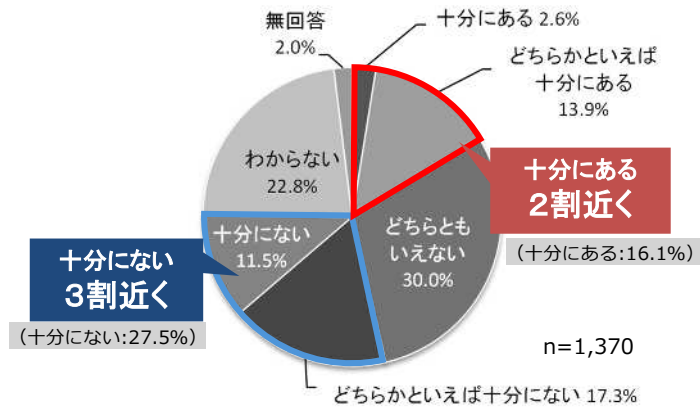


※（ ）は2016年度調査数値



- ・働く場所について、2割近くが十分にあると考えている一方、3割近くは十分でないと考えている。
- ・男女の地位について、職場では4割、地域社会では半数近く、社会全体では6割近くが「男性が優遇されている」と評価

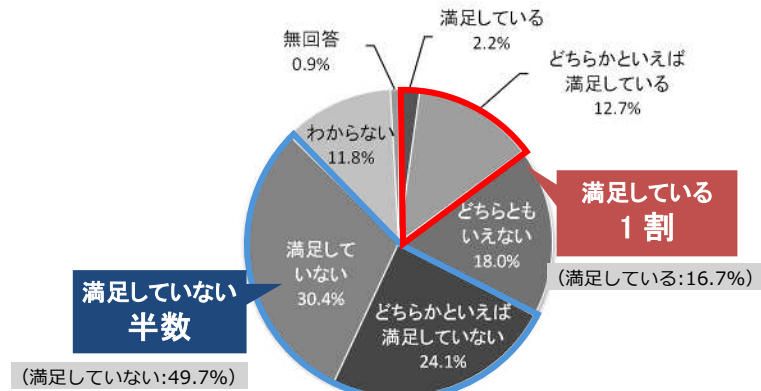
Q27：東近江市の働く場所について



※ ( ) は 2023 年度調査数値

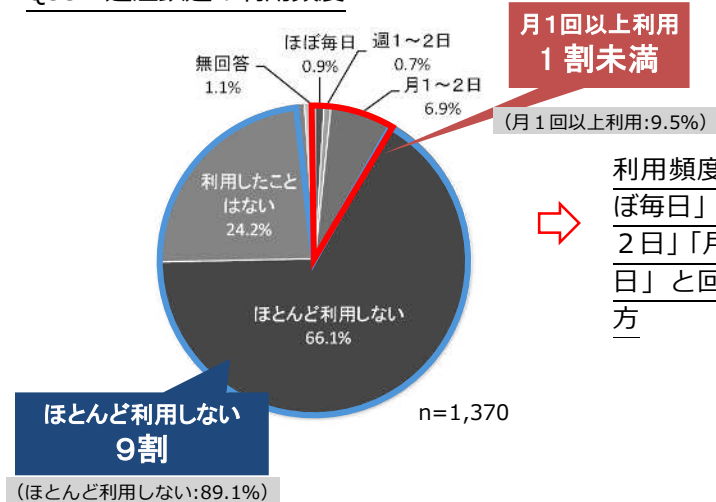
- ・市内の鉄道やバス等の公共交通については、半数近くが満足していない。(60歳代までの半数以上が満足していない)
- ・近江鉄道については、9割が利用していないものの、8割が重要と考えている一方、6割近くが利便性等の改善を望んでいる
- ・近江鉄道の主な利用目的は、「遊び・趣味等」、「通勤・通学」、「買物」(月1日以上の利用者)の順となっている。

Q31：市内の公共交通機関に対する満足度



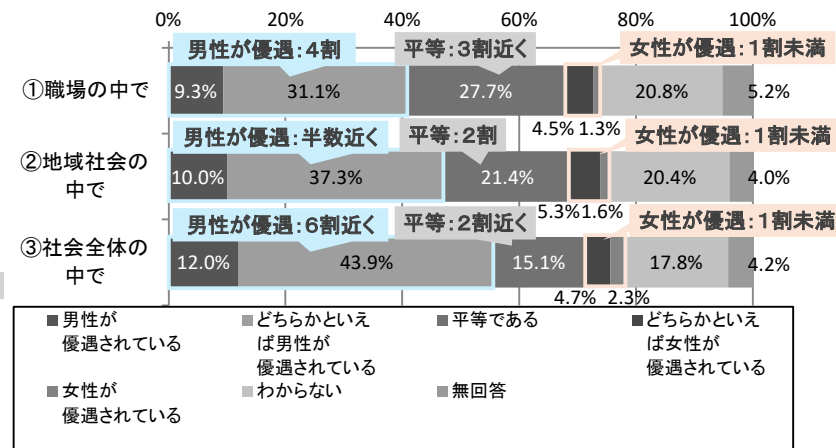
※ ( ) は 2016 年度調査数値

Q33：近江鉄道の利用頻度



※ ( ) は 2017 年度調査数値

Q28：男女の地位は平等になっているか

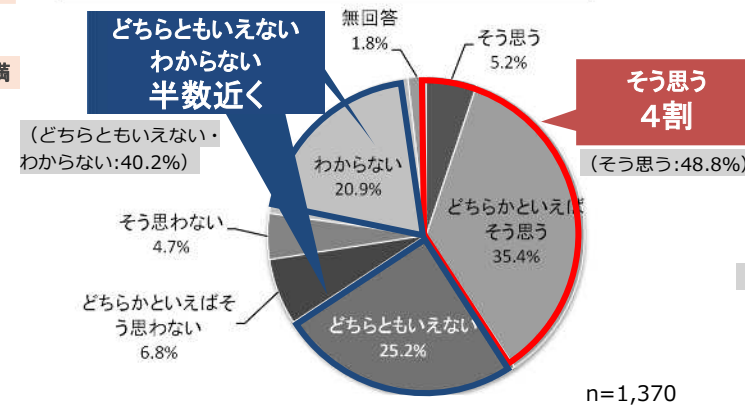


## ■子育てや教育について

子育て環境は約4割が良い環境と考えているが、2015年から割合が下がっており、通学路の安全の確保等子育て環境の充実に向けた更なる取組が必要と考えられる。

- ・約4割が、東近江市は子育てをするのに良い環境だと思っている。
- ・通学路の安全の確保はできているが約3割、できていないが約2割

Q35：東近江市は子育てするのに良い環境か



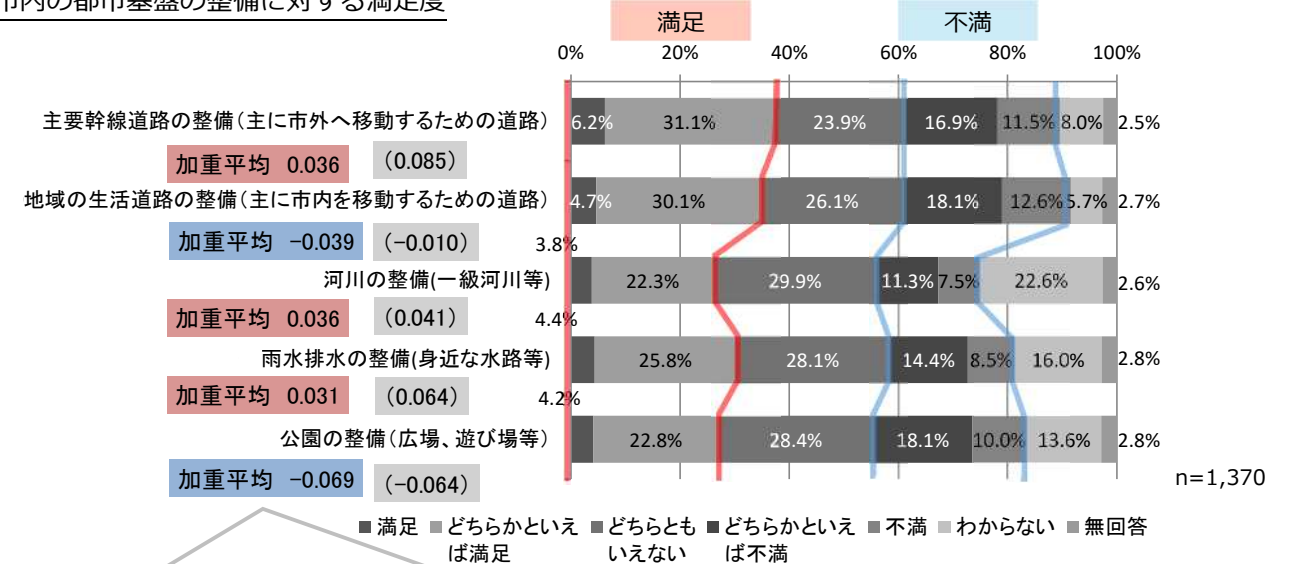
※ ( ) は 2019 年度調査数値

## ■都市整備について

公園、地域の生活道路の整備などの推進が必要と考えられる。

- ・総合的な評価(加重平均\*)の高い順は、主要幹線道路の整備・河川の整備(同率)、雨水排水の整備、地域の生活道路の整備、公園の整備
- ・道路、河川、雨水排水は不満な人より満足の人の方が多いが、公園は不満な人の方が多い。

Q39：市内の都市基盤の整備に対する満足度



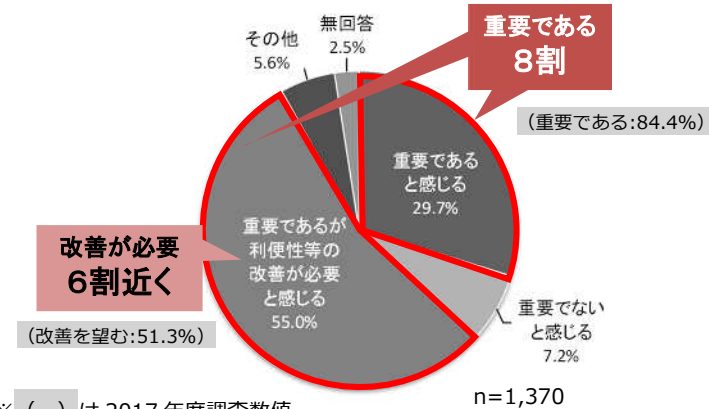
\*加重平均

以下の加点表に基づいて加点した総合点(各選択肢の回答数×加点を合計した値)÷全回答者数(1,370件)値が大きいほど満足度が高く、数値がマイナスだと不満が多く、その絶対値が大きいほど不満度が高くなる。

| 満足 | どちらかといえば満足 | どちらともいえない/わからない | どちらかといえば不満 | 不満  |
|----|------------|-----------------|------------|-----|
| 2点 | 1点         | 0点              | -1点        | -2点 |

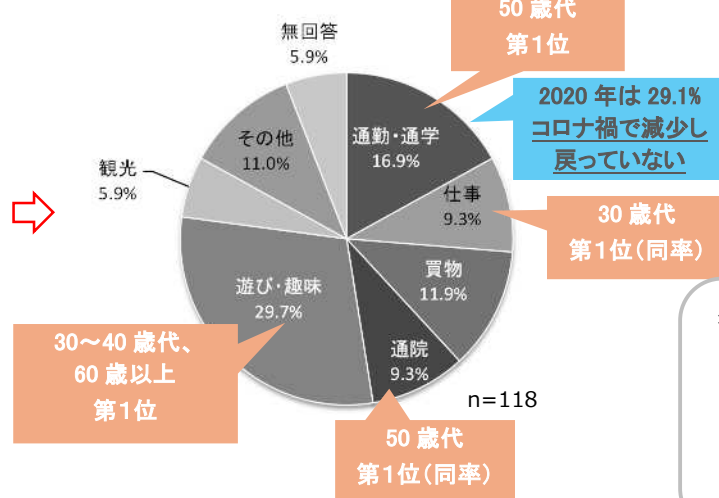
※ ( ) は 2018 年度調査数値

Q32：近江鉄道について



※ ( ) は 2017 年度調査数値

Q33-1：近江鉄道を利用する目的

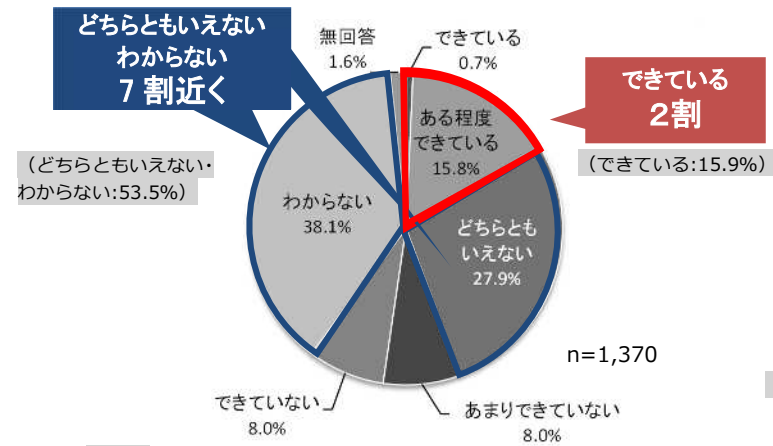


## ■協働のまちづくりについて

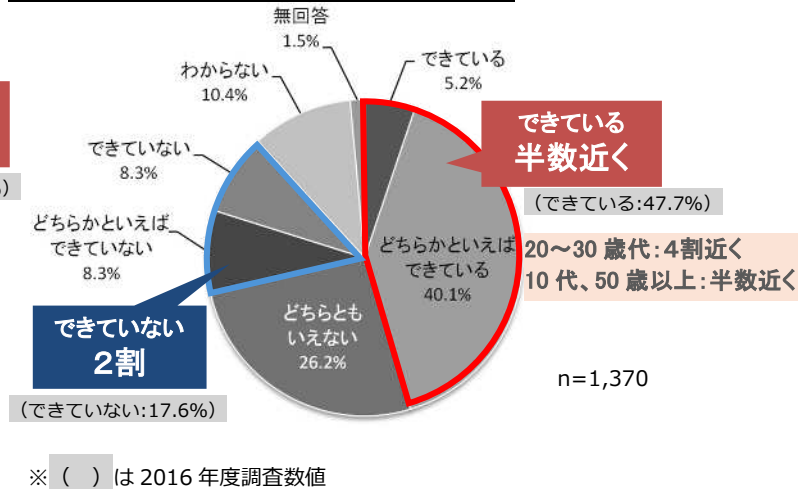
地域での住民同士の助け合いは半数近くができていていると感じているが、協働のまちづくりができていていると感じる人は2割に留まり、若い世代や外国人も含めた、協働のまちづくりの機会の創出や場の充実を図っていく必要があると考えられる。

- ・協働のまちづくりに関しては2割ができていていると回答しているが、「どちらともいえない」「わからない」が7割近く。
- ・地域での住民同士の助け合いは、半数近くができていていると回答している。
- ・地域活動又はNPOやボランティア活動に3割が参加している一方、半数近くが「参加していない」と回答
- ・活動内容は自治会活動が9割。まちづくり協議会の活動、ボランティア活動が2割前後
- ・国籍や民族の異なる人々が互いに認め合い、共に暮らす社会の実現は、7割近くが重要と考えている。

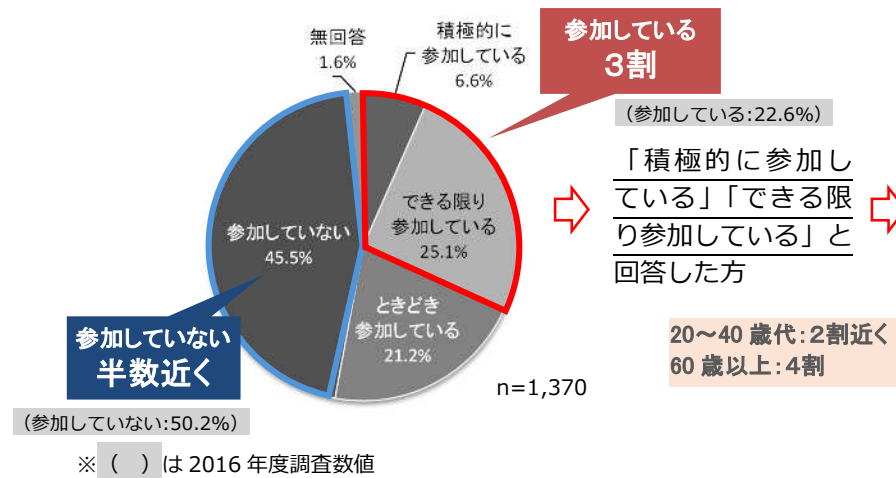
Q44：東近江市の協働のまちづくりについて



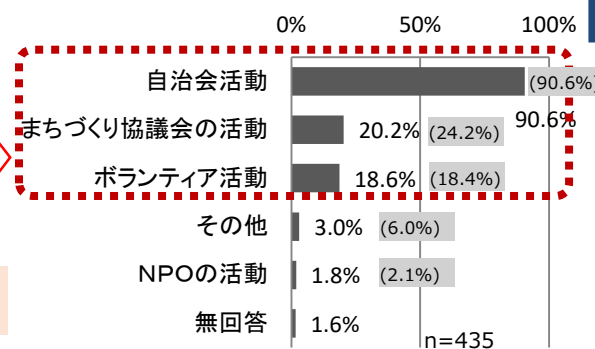
Q45：地域の住民同士の助け合いについて



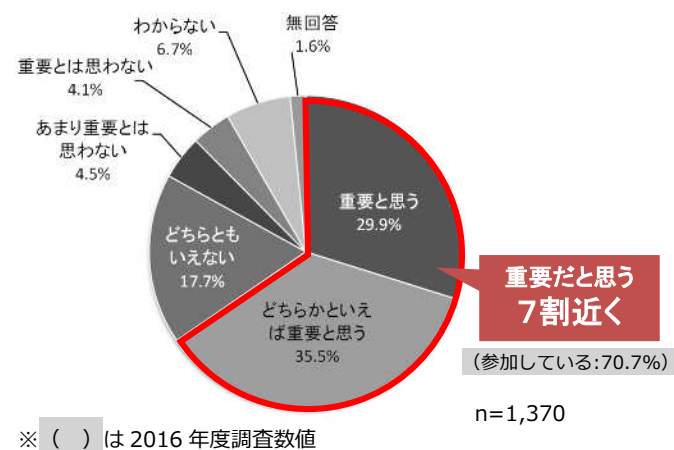
Q46：地域活動又はNPOやボランティア等の活動への参加



Q46-1：どのような活動に参加したか（複数回答）



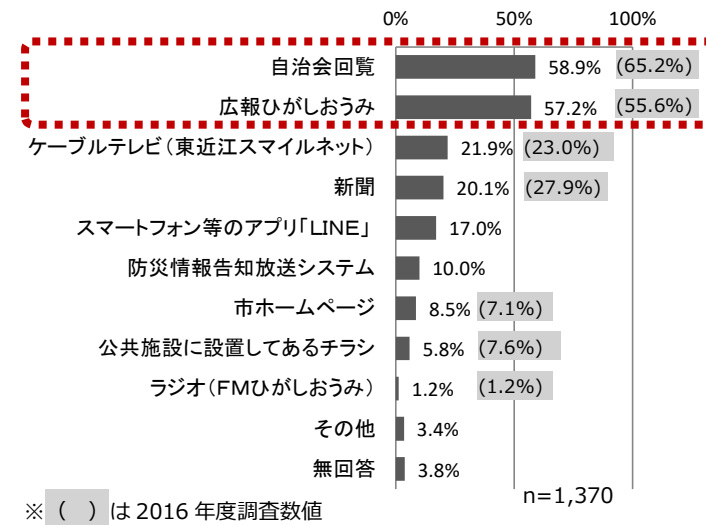
Q47：国籍や民族の異なる人々と共に暮らす社会の実現



## ■広報等の情報について

自治会回覧、広報ひがしおうみで市の情報を取得する人が6割近くと割合が高い一方、「LINE」や「市ホームページ」などの割合も高まっており、時代の潮流に合わせた広報を検討する必要がある。

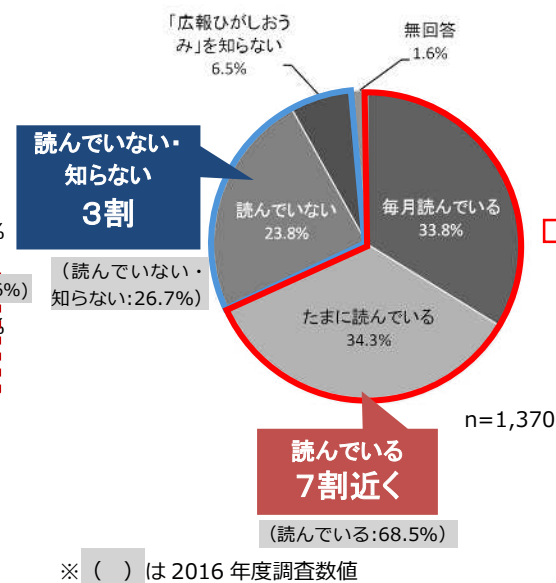
Q48：市の情報（お知らせ）の取得方法(3つまで選択)



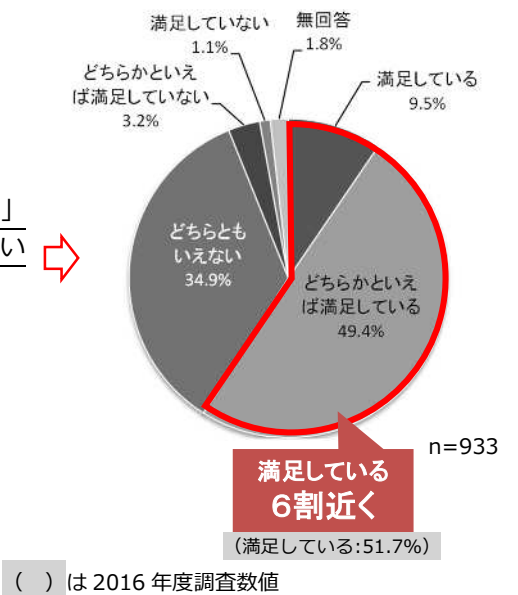
・市の情報（お知らせ）の取得方法について、自治会回覧、広報ひがしおうみで取得する人が6割近く。2015年と比較して既存媒体の割合が減少しており、「LINE」「市ホームページ」の割合が高まっている。

・「広報ひがしおうみ」について、読んでいる人は7割近くとなっており、そのうち満足している人は6割近く。

Q49：広報紙「広報ひがしおうみ」について



Q49-1：「広報ひがしおうみ」の内容に対する満足度



## ■市役所のサービスに関して

市役所職員の対応に関して、6割近くが良かったと回答しており、現状を維持したサービスの提供や更なる向上が望まれる。

・市役所職員の対応に関して、良かったと回答した人は6割近く。

Q53：東近江市役所職員の対応の印象

